

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 表現			3. 思考			4. 態度・志向性		5. 実践
					1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	5-1			
18UNSB1106	解剖生理学Ⅰ	1	人間の形態と機能、構造を系統的に学ぶと共に、形態と機能を関連付けて学習し、看護実践の方法や治療の必要性を理解するための基礎知識を修得することを目的としている。	1. 人間の形態と機能、構造について系統的に学び、その基礎的な特徴や働きを説明することができる。 2. 看護や医学的な処置を行う上での注意点を結びつけて、人間の形態や機能、構造を理解する必要性を考察することができる。	○	◎		○	○	○						
	解剖生理学Ⅱ	1	人間の形態と機能、構造を系統的に学ぶと共に、形態と機能を関連付けて学習し、看護実践の方法や治療の必要性を理解するための基礎知識を修得することを目的としている。	1. 人間の形態と機能、構造について系統的に学び、その基礎的な特徴や働きを説明することができる。 2. 看護や医学的な処置を行う上での注意点を結びつけて、人間の形態や機能、構造を理解する必要性を考察することができる。	○	◎		○	○	○						
	生 化 学	1	援助の対象となる人間の体内で起こっている合成と分解、代謝、排泄、免疫反応のメカニズム、遺伝情報（DNA、RNA）の概要が理解できるような基礎的知識を学ぶことを目的としている。	1. 生命活動にかかわるすべての分子の正常な代謝についての基礎知識を整理し、これらの代謝に関わる基本的な用語を説明できる。 2. 正常な代謝や反応を学ぶことにより、異常時の状態を判断する情報の理解や人間の機能への影響の重要性を考察することができる。	○	◎		○	◎	○						
18UNSB1109	臨床病態栄養学	1	臨床現場（病院、施設など）において、病いと闘っている援助の対象者の生活の質の向上のために、栄養的な側面から何ができるのかについて、自分の頭で考えられる力と情報を取り入れる能力の獲得を目指す。また、低栄養状態を引き起こす疾病に関して、解剖生理学、病態、栄養学的問題点、それに対する栄養ケアの意義や方法の特徴に関する基礎的知識の獲得を目的とする。	1. 臨床栄養学のキーワードに関する意義と課題を自分で説明できる。 2. 実際の対象者における意味や栄養サポートの導入部に関する基礎知識を記述できる。 3. 低栄養状態を引き起こす病態についての基礎的な用語を説明することができる。	○	◎		○	◎	○						
	微生物学と感染防御	1	微生物の基本的特徴と人間の健康に重大な影響をもたらす病原微生物の種類や特性とそれが引き起こす感染症の機序に関する基礎知識の獲得を目的としている。特に、感染症発生の要因を理解するための基盤となる感染防御反応（宿主、免疫、抗体など）や感染防御策に関連する基礎的用語（スタンダードプリコーション、流行、法律）を学習する。	1. 病原微生物の種類や特性とそれが引き起こす感染症の特徴を説明できる。 2. 感染防御策の必要性和基本的な方法の留意点を記述することができる。	○	◎		○	◎	○						
	看護薬理学	2	正確で安全な薬物療法を実施するための看護師の役割という観点で、主な薬物の作用や薬物動態の基礎的な理解を目的とする。また、用量、用法による違いや作用、副作用の意味を学び、リスクも踏まえて実際に薬物療法を行う際の援助の留意点に結びつけられるような基礎知識の獲得を目的とする。また、薬害被害の歴史と現状、薬害防止と被害者への対応の在り方を考察できるようにする。	1. 主な薬物の作用や薬物動態について説明できる。 2. 与薬法：経口、点滴、直腸内、点眼、経皮などの投与経路による作用や薬物動態の特徴を記述できる。 3. 神経系に作用する薬剤、呼吸器・消化器・循環器疾患に用いる薬剤、疼痛緩和に用いる薬剤、化学療法の特徴や留意点を説明できる。	○	◎		○	◎	○	○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解			2. 表現			3. 思考			4. 態度・志向性		5. 実践		
1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	5-1										
疾病の成り立ちと回復促進	18UNSB1112	疾病治療概論	1	看護実践を行う上で、治療の必要性や治療に伴う援助の方法を検討する上で必要となる患者の病態、診断、治療に関する基礎的知識基盤を構築することを目的とする。	1. 主な疾患の特徴を自分なりに整理して説明できる。 2. 講義内容に基づいて各治療の特徴や留意点を抽出して、記述することができる。	○	◎		○	◎	○							
	18UNSB3113	リハビリテーション学	3	健康問題を有する援助の対象者が、再び日常生活を送るために必要なリハビリテーションの基礎知識を修得し、理論と実践の概要を学ぶことを目的としている。	1. リハビリテーションの意味やあり方を自分なりに整理して説明できる。 2. 様々な場面におけるリハビリテーションの特徴や留意点を抽出して、看護師の役割を考察することができる。	○	◎		○	◎	○							
基礎教育科目 健康支援と社会保障制度	18UNSB2114	保健医療福祉制度	2	本科目では、保健・医療・福祉の行政の歴史、制度や関係法規に関する基礎知識を学び、母子や成人、高齢者の保健医療福祉行政の概要と国や地方自治体が担う役割や機能に関する基礎的知識の修得を目的としている。加えて、将来的な保健医療福祉行政の課題について考察できるようにする。	1. 保健医療サービスの対象者の生活を支える年金保険制度や医療保険制度、介護保険制度の基本的な仕組みに関する基本的枠組みや基礎用語を説明できる。 2. 母子・成人・高齢者の保健医療福祉に関する制度の現状や課題を理解し、自分の言葉でまとめることができる。	○	◎							◎				
	18UNSB3115	チーム医療論	3	保健医療福祉分野におけるチームアプローチの必要性を理解し、各専門職者の役割や機能の特徴を知り、理解を深めるとともに、連携のあり方や看護職者の役割・責任に対する考え方を明確にすることを目的とする。	1. 保健医療福祉分野の各専門職者の役割や機能の特徴を説明できる。 2. チームアプローチの必要性を記述することができる。 3. チーム医療における看護職者の役割や責任を自分の言葉で説明できる。	○		○		○				◎				
	18UNSB2116	公衆衛生看護学	2	地域で生活するすべてのライフステージ、すべての健康レベルにある個人・家族、集団、地域を対象とする生活の場における看護について学ぶ。	1. 公衆衛生看護の歴史および公衆衛生看護活動の基盤となる概念について理解できる。 2. 公衆衛生看護の対象と公衆衛生看護活動を展開する場および活動方法を理解できる。 3. 地域で生活する住民の疾病予防、健康の保持・増進にかかわる地域のヘルスケアシステムについて理解できる。	○	○			○				◎				
18UNSB3117	疫学	学	3	健康づくりを中心とした予防的な保健活動を行うにあたり、その根拠を科学的に評価することは不可欠である。人間集団における健康状態とそれに関連する要因の頻度と分布を明らかにする疫学の基礎を教授する。	疫学概念および疾病頻度の指標、疫学調査法を理解し、既存統計資料の利用方法について学ぶ。具体的な疫学研究と保健活動への活用を知り、その必要性について理解する。	◎	○							○				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 表現			3. 思考			4. 態度・志向性
1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	5-1						
18UNSS1131	看護学概論	1	看護の概念および生活者としての看護の対象に看護を提供するために必要な基本的概念「人間」「看護」「健康」「環境」について学び、また、看護の歴史や看護理論、看護制度、看護教育制度、看護倫理などに関する看護実践の基礎的知識を習得する。それを通して、看護の対象である人間について看護の視点から洞察を深めると共に、看護師として必要とされる基本的態度や自己研鑽・看護観構築の必要性を理解する。	1. 看護を提供するために必要な基本的概念「人間」「看護」「健康」「環境」を理解し、看護とは何か、看護師とは何かについて、自分なりの考えをまとめることができる。 2. 看護の歴史や制度から現在の看護の位置づけを記述することができる。 3. 看護理論や看護倫理の必要性と看護実践とのつながりを説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	看護援助論	2	本科目では、看護援助の基本となる対人関係やコミュニケーションに関する理論と技術を学び、基本的なコミュニケーション技術を修得することを目的としている。また、看護援助を展開していくための思考プロセスとしての看護過程の展開に必要な基礎学習と事例展開を行って、看護過程を具体的に展開する基礎的な能力を育成する。	1. 看護過程の意義や構成要素について説明することができる。 2. 患者情報に基づいてデータベースを作成できる。 3. データベースの情報を解釈・統合し、看護問題を抽出できる。 4. 評価につながる達成可能な患者目標を設定し、それに到達するような計画を具体的に立てることができる。 5. 評価を行うときの注目点に分かる。	○	◎	◎	○	◎	◎	○	○		
	基礎看護技術演習Ⅰ	2	本科目は看護行為に共通する技術について、看護実践における看護技術とは何かをふまえて講義と演習を統合させながら基本技術を修得する。各単元は、「看護における技術の概念」「看護技術に必要な安全・安楽・自立」「観察・記録・報告」「バイタルサインの測定」「環境の調整」「ボディメカニクス」「安楽な体位」「食事と栄養」「フィジカルアセスメント」などである。	1. 安全、安楽、自立を考慮し、効率的な共通基本技術の方法の根拠や留意点を説明することができる。 2. 基礎的な共通基本技術を安全、安楽、自立や効率性を考慮して実施することができる。 3. 基礎的な共通基本技術を実施した後、自分の援助技術を評価し、改善策を見出すことができる。	○	◎	◎	○	◎	○	○	○		
	基礎看護技術演習Ⅱ	2	本科目は基礎看護技術演習Ⅰを基盤として、患者の生活や機能面からみた日常生活行動に焦点をあてた援助技術の習得を目指している。特に、人間の生活や健康にとっての日常生活行動の意味を理解しながら、対象の健康レベルや発達段階に応じた日常生活援助の必要性が判断でき、対象に応じた日常生活援助が実施できるよう技術の原理原則と応用面への基礎的学習を行う。単元は、「体位変換」「移動移送」「リネンチェンジ」「排泄」「衣生活」「身体の清潔」などである。	1. 安全、安楽、自立を考慮し、効率的な日常生活援助技術の方法の根拠や留意点を説明することができる。 2. 基礎的な日常生活援助技術を安全、安楽、自立や効率性を考慮して実施することができる。 3. 基礎的な日常生活援助技術を実施した後、自分の援助技術を評価し、改善策を見出すことができる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○		

専門教育科目
基礎看護学分野

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 表現			3. 思考			4. 態度・志向性		5. 実践
					1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	5-1			
18UNSS2135	基礎看護技術演習Ⅲ	2	本科目は基礎看護技術演習Ⅰ、Ⅱの知識と技術を基盤に、療養生活の中での診断と治療場面における患者の安全・安楽を確保する援助技術を学習する。単元は「感染予防」「排泄を促す技術」「呼吸を整える技術：吸入・吸引」「検査と看護：採血」「与薬と看護：内服・注射」などである。療養生活の中での診断と治療に関わる看護師の役割を踏まえ、患者の診断と治療が安全で確実に実施されるような基本的技術の習得を目指す。	1. 安全、安楽、自立および療養生活を考慮し、確実な治療処置技術の方法の根拠や留意点を説明することができる。 2. 基礎的な治療処置技術を安全、安楽、自立や効率性を考慮して実施することができる。 3. 基礎的な治療処置技術を実施した後、自分の援助技術を評価し、改善策を見出すことができる。	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○				
	18UNSS2136	基礎看護学実習Ⅰ	2	看護の対象となる人を中心にして、その人が生活する療養生活、療養環境、および療養している人の身体心理社会的な様子を知ることが目的としている。また、看護師の実際の看護活動を見学し、看護援助の実際や療養生活を支える看護師の役割についての理解を深めることを目的としている。加えて、実際に対象との対話の機会を持つことで、看護援助の基本となるコミュニケーション能力や観察能力の重要性と自己の課題を明確にして、学習動機に結びつける。	1. 看護の対象者の療養生活を支える施設の総合的な機能や他職種の役割を説明することができる。 2. 対象者の療養生活およびその人の身体心理社会的な様子を自分の言葉で説明できる。 3. 看護援助の場面を見学することにより、療養生活をサポートする看護師の役割を考察することができる。 4. 対象を理解しようとする姿勢でコミュニケーションをとることができる。 5. 自己の学習課題を明確にすることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	18UNSS2137	基礎看護学実習Ⅱ	2	対象に必要な日常生活援助の実施を通して、個別性のある看護技術の実施とは何かを学び、看護の機能と看護師の役割の実際を理解する。特に、患者とのコミュニケーション技術や観察技術に基づいて情報収集を行い、日常生活における援助のニーズを判断し、計画、実施、評価の過程を展開するものである。これを通して、看護師としての基本的な態度や役割についての考察を深める。また、今後の自己の学習課題を明確にする。	1. 対象に合わせた基本的な日常生活技術を指導を受けながら実践することができる。 2. 実践したことを安全・安楽・自立の視点から振り返ることができる。 3. 対象を尊重し、対象を理解しようとする姿勢でコミュニケーションをとることができる。 4. 対象のプライバシーを守り、倫理的な行動がとれる。 5. 自己の学習課題を明確にすることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
18UNSS1138	成人看護学概論	1	成人看護学各論への導入として「成人」「成人をとりまく健康課題」「成人看護展開のための理論および概念」「健康状態に応じた看護」を理解し、成人看護実践の基盤にできることを目的とする。	1. 成人期にある人々の心身の機能と発達課題、家族や社会における役割を説明できる。 2. 成人期における健康問題や課題を説明できる。 3. 成人看護に有用な理論および概念を理解できる。 4. 成人期にある人々を支援する看護活動および看護師の役割について説明できる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○			

専門教育科目

基礎看護学分野

成人看護学分野

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解			2. 表現			3. 思考			4. 態度・志向性			5. 実践		
					1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	5-1						
18UNSS2139	成人看護学ⅠA	2	成人看護学概論で既習した知識を積み上げ、慢性期と急性期の病態・病期・健康障害に応じた必要な看護援助とその根拠を理解する。	1. 疾患、病態、治療に関連した身体・心理・社会的側面への影響を理解できる。 2. 疾患や病態の慢性・急性期の症状・特徴や改善・悪化状況の指標となる検査データ、徴候を理解できる。 3. 疾患、病態時期に必要な治療とその看護援助について理解できる。 4. 慢性期・急性期にある患者の合併症予防の援助や退院後の日常生活を支援する方法を理解できる。 5. クリティカルな状況にある患者への看護について理解できる。	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○						
	成人看護学ⅠB	2	成人看護学概論で既習した知識を積み上げ、慢性期と急性期の病態・病期・障害を抱えて生活する対象者に応じた必要な援助とその根拠を理解する。	1. 疾患、病態、治療に関連した身体機能への影響を理解できる。 2. 疾患や病態の慢性期・急性期の症状・特徴や改善・悪化状況の指標となる検査データ、徴候を理解できる。 3. 疾患、病態時期に必要な治療とその看護について理解できる。 4. 慢性期・急性期にある患者の合併症予防の援助や退院後の日常生活を支援する方法を理解できる。 5. 周手術期、クリティカルな状態にある患者・家族への看護について理解できる。	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○						
	成人看護学Ⅱ（慢性期）	3	慢性期にある患者を看護するにあたり必要な基礎的知識と技術を正確に理解し、演習を通して患者の療養生活を実際にイメージしながら、個々の患者に必要な援助について考える力を養うことを目的とする。	1. 慢性的な疾病や障害によって必要となる療養法について学び、それが生活に及ぼす影響について、患者の立場で考察できる。 2. 慢性的な疾病や障害を有する患者の療養生活を支援するために必要となる一般的な知識と技術について学び、その上で個々の患者に応じた看護援助について考察できる。 3. 慢性的な疾病や障害を有する患者の看護過程について学び、情報の収集・整理からアセスメント、看護上の問題の抽出、看護計画の立案まで、自分で展開できる。	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○						
	成人看護学Ⅱ（急性期）	3	急性期にある対象者の医療に必要とされる知識や考え方、看護技術を演習を通して習得し、臨床実習または実際の医療現場をイメージできることを主な目的とする。	1. 一次救命処置のアルゴリズムにおける各技術について正しく理解し、安全かつ確実な一次救命処置を実施することができる。 2. ストーマケア技術を実施できる。 3. 創傷の治癒過程をふまえて観察方法を理解し、実践できる。 4. 術前に必要な呼吸訓練の目的・意義・方法とその根拠について正しく理解し、実施できる。 5. 術後の観察方法を知り、患者の状態をアセスメントできる。 6. 気管内吸引の適応を理解し、開放式気管内吸引を正しく実施できる。 7. 情報の整理・アセスメント・問題の抽出・計画立案の一連のプロセスを展開できる。	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○						
	サポータティブケア	2	がん化学療法や放射線療法による有害事象を緩和する援助、ADL低下に対する援助、苦痛症状の緩和、セルフケア促進のための援助について理解できる。	1. がん化学療法や放射線療法による有害事象やそれらを緩和する援助を理解できる。 2. 痛みの評価方法や徐痛方法を理解できる。 3. がん患者の心のケアの必要性を理解できる。	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○						
	成人看護学実習（慢性期）	3後～4前	この科目は、これまでの授業を通して習得した知識と技術をもとにして、慢性期にある患者への看護のあり方を理解しながら、看護過程の能力を養い、個々の患者に必要な援助方法を学ぶことを目的としている。	1. 対象者の病態および治療による身体状況を理解できる。 2. 対象者との円滑なコミュニケーションを通じて信頼関係を築くとともに、対象者の置かれた心理的社会的背景を理解できる。 3. 対象者の生活を尊重した援助を考えることができる。 4. 対象者のセルフケアやセルフマネジメントを支援するための関わりを考えることができる。 5. 対象者の療養生活を継続するために必要な社会資源の活用や継続看護、他職種との連携について考えることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						

専門教育科目
成人看護学分野

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 表現			3. 思考			4. 態度・志向性		5. 実践
					1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	5-1			
専門教育科目	老年看護学分野	18UNSS3150	老年看護学実習 I	3 後 ～ 4 前	この科目では、老年期にある様々な健康段階の人を身体的、心理的、社会的側面から総合的に理解し、その人を取り巻く家族や生活環境、社会資源について理解を深め、健康生活課題の解決を支援する方法について考える力を養うことを目的とする。	1. ケアマネジメントの第一線機関である地域包括支援センターや居宅介護支援事業所の概要を理解し、実施されているマネジメント業務の実践について学ぶ。 2. 地域で生活する老年期にある様々な健康段階の人のニーズおよび相談内容を知り、健康生活課題の解決を支援する方法について考える力を養う。 3. 地域包括支援センターや居宅介護支援事業所における看護職の役割について理解できる。 4. 特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイ、グループホーム等、様々な社会資源について理解できる。 5. 介護老人福祉施設を利用する高齢者の健康課題について理解できる。 6. 介護老人福祉施設を利用する高齢者の援助計画を立案できる。 7. 介護老人福祉施設におけるチームアプローチと多職種連携について説明できる。 8. 介護老人福祉施設における看護の役割について、考えを述べることができる。 9. 自己の高齢者観と看護観を説明できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		18UNSS3151	老年看護学実習 II	3 後 ～ 4 前	この科目では、入院治療を必要とする老年期にある人を全人的に理解し、その人の個別性に応じた看護を実践する基礎的能力を養うことを目的とする。	1. 入院治療を必要とする高齢者の健康課題について理解できる。 2. 医療施設（病院）に入院中の高齢者の受け持ちを通して、看護過程の展開ができる。 3. 医療施設におけるチームアプローチと多職種連携について、説明することができる。 4. 医療施設における看護の役割について、考えを述べるができる。 5. 自己の高齢者観と看護観を説明できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	18UNSS1152	小児看護学概論	1	この科目は、対象となる小児の成長発達と家族の役割を理解したうえで、小児看護に関する変遷を踏まえたうえで、小児看護の機能と役割、社会の子どもに対する対応について学ぶことを目的としている。	1. 小児看護に関する発展の変遷および機能や役割についての考え方を理解できる。 2. 子どもの成長発達について、主な発達理論や発達過程の特徴および発達段階に応じた対応を理解できる。 3. 子どもの発達に伴う家族の変化や役割を理解できる。 4. 子どもに関わる法律や保健政策の現状を知り、社会の中で育つ子どもに必要な支援を理解できる。 5. 学んだ子どもの発達過程の知識を活用して、自分の発達過程を分析できる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
18UNSS2153	小児看護学 I	2	この科目は、子どもに特徴的な疾患および健康障害について理解し、その疾患および健康障害がある子どもと家族に看護を実施するための基礎知識を獲得することを目的としている。	1. 子どもの安全と事故防止について理解し、説明ができるようになる。 2. 子どもの病気の影響や入院生活について理解し、説明ができるようになる。 3. プレパレーションについて理解し、説明ができるようになる。 4. 小児看護専門看護師の役割について理解し、説明ができるようになる。 5. 子どもに特徴的な疾患および健康障害について理解し、その看護援助の方法について説明ができるようになる。 6. 白血病と闘病する子どもと家族の事例について、情報をもとにアセスメントし、看護援助の方向性が説明できるようになる。 7. 小児の外来および救急における看護について理解し、その特徴について説明ができるようになる。	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 表現			3. 思考			4. 態度・志向性		5. 実践
					1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	5-1			
小児看護学分野	18UNSS2154	小児看護学 II	2	この科目は、子どもへの日常生活援助の技術およびフィジカルアセスメントの技術を学び、入院する子どもの看護過程の展開に必要な能力を習得することを目的としている。	1. フィジカルアセスメントの方法について理解し、モデルを対象に実施ができるようになる。 2. 子どもの日常生活援助について、説明ができるようになる。 3. 離乳食の演習を通して、離乳食の発達ごとの特徴について説明ができるようになる。 4. 子どもの遊びや絵本の読み聞かせについて理解し、実施できるようになる。 5. 健康障害を抱える子どもと家族の事例について、情報をもとにアセスメントし、看護問題の明確化ができるようになる。 6. 健康障害を抱える子どもと家族の事例について、看護計画の立案ができるようになる。 7. グループワークで、積極的な態度を示すことができる。 8. グループワークで、自身の意見およびグループの意見を述べるができる。	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○		
	18UNSS3155	チャイルドディベロップメンタルアプローチ	3	この科目は、子どもが育つ過程で生じる子どもと家族に生じる問題に関して、子どもと家族の生活の変化や家族関係を考慮した対応をグループ討議やワークで具体的に検討できることを目的としている。	1. 子どもの育つ過程で生じる具体的な問題から、子どもの発達への影響や支援を考えることができる。 2. グループワークや発表を行うことを通じて、メンバー相互の協力や協調を学ぶことができる。 3. 育児期の家族に生じやすい具体的な問題から、家族の発達と支援のあり方を考えることができる。	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○		
	18UNSS3156	小児看護学実習	3 後 4 前	この科目では、保育園・幼稚園において健康な子どもの成長発達と発達に応じた援助の実際を学び、さらに病院に通院あるいは入院している子どもと家族に対する看護の実際を学ぶことを目的としている。	1. 乳幼児期の子どもの成長発達を評価し、発達に応じた子どもへの援助が実践できるようになる。 2. 保育士あるいは幼稚園教諭の行う子どもの発達に応じたより適切な対応について理解し、説明ができるようになる。 3. 通院中あるいは入院中の子どもの病状・治療と成長発達に応じた適切なニーズを理解した上で、子どもと家族のニーズに応じたケアの計画、実施、評価ができるようになる。 4. 子どもと家族にとって必要な社会資源を理解するとともに、保健医療メンバーとしての役割と連携について理解し、説明ができるようになる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
母性看護学分野	18UNSS2157	母性看護学概論	2	この科目は母性看護の対象となる親・子ども（胎児を含む）・家族を理解するために必要な概念、理論について教授するとともに、対象を取り巻く社会的な変化や法律を踏まえた対象の健康課題やニーズを理解し、母性看護の基本を学ぶことを目的とする。	1. 母性看護の対象理解に必要な概念、理論について説明できる。 2. 母子保健の統計指標について説明でき、母子保健の動向を把握できる。 3. 母性看護における看護援助の基本的な考え方を説明できる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○		
	18UNSS2158	母性看護学 I	2	この科目は妊娠、出産を経て新しい家族を構築していく周産期の女性、新生児とその家族の健康状態をアセスメントするために必要な知識の習得を目的としている。	1. 妊娠・分娩・産褥期の女性が経験する身体的な変化および心理・社会的変化を説明できる。 2. 胎児・新生児の発達・適応過程を説明できる。 3. 周産期に生じやすい異常・健康障害を説明できる。	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解			2. 表現			3. 思考			4. 態度・志向性			5. 実践		
					1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	5-1						
専門教育科目	母性看護学分野	18UNSS3159	母性看護学Ⅱ	3	この科目は、周産期（妊娠・分娩・産褥期）の女性、新生児とその家族に対する看護を実践するために、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、その他の関連科目で習得した知識・技術を統合し、看護計画を立案する能力を養うことを目的としている。	1. 対象（周産期の女性、新生児および家族）の健康状態をアセスメントするために必要な知識、技術を述べることができる。 2. 対象の健康状態を適切にアセスメントできる。 3. アセスメントに基づき、対象の健康増進のために必要な看護ケアを計画することができる。 4. グループワーク（GW）ではメンバーと協力して取り組み、課題を完成することができる。	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○				
		18UNSS3160	ウイメンズヘルスケア	3	この科目は女性のライフサイクルにおける健康課題・問題を理解し、女性とその家族の健康を維持、増進するための看護について学ぶことを目的としている。	1. 女性の生涯における身体的変化と心理・社会的発達について理解できる。 2. ライフサイクルにおける女性の健康課題・問題を概観し、その特徴を説明できる。 3. 女性の健康課題・問題に応じた看護援助について具体的に考えることができる。	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○				
		18UNSS3161	母性看護学実習	3 後 4 前	この科目は、これまでに学んできた知識と技術を統合し、周産期の女性、新生児、その家族への臨床看護に活用して援助を実践するための基礎的能力を養うことを目的としている。さらに、保健医療チームの一員として他のメンバーと協働する能力を養う。	1. 周産期にある女性・新生児とその家族の健康状態を多面的・統合的にアセスメントできる。 2. アセスメントに基づき、対象の健康増進に必要な看護ケアを計画できる。 3. 看護ケアを実践し、設定した目標に照らして結果を評価することができる。 4. 必要に応じて看護計画を修正することができる。 5. 自分の行った看護をまとめ、学んだことをグループメンバーと共有することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	精神看護学分野	18UNSS2162	精神看護学概論	2	精神看護の対象および精神の健康問題の概観について理解し、今後精神看護学を学んでいく上での課題を学生個々が見いだすことができる。	1. 精神医療保健福祉の現状および歴史をふまえ、精神看護学の対象についての概観を理解する。 2. 現代社会における精神の健康の多様性と精神疾患や障がいに対する偏見について考え、精神の健康を理解する上での課題を学生個々が見いだすことができる。 3. 人々が自ら精神の健康を維持・増進できるような看護について考え、精神看護学を今後学んでいく上での課題を学生個々が見いだすことができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○				
18UNSS2163		精神看護学Ⅰ	2	精神の健康に関する基礎理論について学び、様々な精神疾患や障害の特徴についての理解を深め、その疾患や障害をもつ人にとってそれがどのような体験なのか推察し、治療および看護の方向性およびチームでの取組について検討できる。また、援助者自身のメンタルヘルスについても考えることができる。	1. 精神の健康や疾患に関する基礎理論の概観がわかる。 2. 主な精神疾患や障害の成り立ちや特徴、主な治療について説明できる。 3. 精神疾患や障害に関連する検査・診断・症状を、その人の生活の視点からみて、その人にとってはどのような体験かを考え、看護の方向性について検討することができる。 4. 精神疾患や障害をもつ人への援助を行う上でのチームアプローチの概観を説明できる。 5. 精神疾患や障害をもつ人を援助する人のメンタルヘルスや、援助関係で生じることについて考えることができる。	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 表現			3. 思考			4. 態度・志向性		5. 実践
1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	5-1								
18UNSS3164	精神看護学Ⅱ	3	精神看護を実践するための具体的な知識と技法を学ぶ。精神疾患や障害をもつ人に対する看護アセスメントの考え方を身につける。	1. 精神看護実践の基本となる諸理論と実践との関連が理解できる。 2. 精神科における入院の特徴をふまえた看護アプローチを考えることができる。 3. 精神科看護における倫理的問題と問題への取り組みについて考えることができる。 4. 精神疾患・障害をもつ人に対する看護過程を展開するためのアセスメントの視点、考え方を理解できる。 5. プロセスレコードを用いた関係のアセスメントやその活用方法が理解できる。 6. 精神疾患・障害をもつ人への理解を深め、地域で生活していくための資源や看護アプローチの方法について考えることができる。 7. 当事者主体のかかわり、ストレングスやその人らしさを大切にすることの重要性や意味を考えることができる。	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○			
			18UNSS3165	グループアプローチ	3	グループのもつ力について基盤となる理論を学び、様々なグループを体験し、体験を通して、グループダイナミクスについて理解を深め、看護におけるグループアプローチについて考えることができる。また、個人の力を最大限に活かせるグループのあり方について自身の考えを表現することができる。	1. グループの基盤となる理論について学び家族や地域の人々、学生同士のグループ、学内の人間関係といった日常のグループのあり方について考えることができる。 2. グループの中で、他者に自身の思いや考えを伝える（話せる）ことができ、また他者の話しを聴く（理解しようとする）ことができる。 3. グループで生じる様々な出来事、共感、サポート、成長など、様々なタイプのグループ体験を通して能動的に学ぶ。	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○
			18UNSS3166	精神看護学実習	3 後 4 前	精神疾患・障害をもつ対象者とのかかわりを通して、対象者がかかえている困難をその人の生活上の文脈から理解し、対象の健康回復にとって必要な看護を考え実践するための基礎的な能力を養う。	1. 対象者が日常生活を送るうえで抱えている課題や体験している生きにくさを理解しようとすることができる。 2. 対象者がもつ健康障害を医学的観点からとらえ、治療の必要性や副作用、副作用への対処を考えることができる。 3. 対象者にとっての病気や治療の意味について考え、対象者のもつストレングスについて考えることができる。 4. 対象者のこれまでの生活上の文脈から、今後の回復についてのイメージを描き、現在の看護の方向性を考えることができる。 5. 対象者との関わりをプロセスレコードで振り返り吟味しながら、援助的な関係とは何かを考えることができ、考えたことを実践に生かすことができる。 6. 自分に生じた感情や考えを対話や記録を通して表現し、他者に伝えることができる。そして、率直で誠実な対話を通して、他者および自己理解を深めることができる。 7. 自らをケアの道具として生かしながら関わるとはどういうことかを、実習での体験と照らし合わせて自身の考えを述べるができる。 8. 精神障害をもつ人々の地域生活や福祉サービス、リハビリテーションの実際について理解を深めるとともに、回復支援にかかわる人々の連携について考え、看護の役割や課題について自身の考えを述べるができる。 9. 精神障害者や精神医療への社会や自身の偏見に気づくことができ、自身の課題を明らかにすることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

専門教育科目
精神看護学分野

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解			2. 表現			3. 思考			4. 態度・志向性			5. 実践		
					1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	5-1						
在宅看護学分野	18UNSS2167	在宅看護学概論	2	生活の場である在宅で療養生活を送る人と家族を理解し、在宅療養を支える看護のあり方を多面的に学習する。	1. 在宅療養者と家族の特徴について説明することができる。 2. 在宅看護の役割、機能について説明することができる。 3. 在宅看護の現状から課題を考えることができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○					
	18UNSS2168	在宅看護学 I	2	在宅療養者と家族の生活や価値観を理解し、在宅看護の実践に必要な知識、技術、態度について学習する。	1. 在宅療養者と家族の生活、価値観を尊重した日常生活援助方法が説明できる。 2. 在宅看護における訪問マナーを理解できる。 3. 在宅看護の対象の特徴に応じた看護技術や看護展開が理解できる。	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○					
	18UNSS3169	在宅看護学 II	3	在宅療養者の医療ニーズ、在宅療養者の生活状況に応じた看護技術、看護展開方法について学習する。	1. 在宅看護における訪問マナー、在宅療養者と家族とのコミュニケーションを理解し、実施できる。 2. 在宅療養者の疾患、障害を理解し、在宅療養者に必要な医療ケアを理解し、医療処置に伴う看護が説明できる。 3. 在宅看護における看護過程の展開方法を理解し、療養者と家族の特徴に応じた看護援助方法が説明できる。	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎					
	18UNSS3170	在宅看護学実習	3 後 4 前	在宅療養者と家族に対する看護の実際と展開方法、地域ケアシステムを理解し、在宅看護を実践する基礎的能力を養う。	1. 在宅療養者と家族の健康と生活を理解し、療養上の問題をアセスメントできる。 2. 在宅療養者と家族に対する看護上のニーズを見出し、看護計画を立案できる。 3. 訪問看護の特徴を理解し、説明できる。 4. 在宅療養に必要な社会資源の活用、他職種との連携を理解し、説明できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
統合分野	18UNSS4171	統合看護学実習	4	この科目では、各看護学分野で学んだ知識、これまで統合した学習内容や技術の習得を通して、組織の管理的な機能を把握した上でのチームの一員としての実践的な能力や生活の質を意識したかかわりへの意識を育み、自己の人間の成長と看護師としての展望を明確にすることを目的とする。	1. 実務的な看護実践を通して、時間的管理を考慮したケアの提供を看護師とともに行うことができる。 2. チーム医療および他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップの実際を知ることができる。 3. 組織における看護管理の機能と役割の実際を知ることができる。 4. 対象の疾病予防や生活の質を確保するための施設から地域への連携や生活の質に影響する口腔ケアに関する専門的な支援のあり方に対して、自分の考えをまとめることができる。 5. 本実習を通して自身の看護師としての将来像や看護観を述べるができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
	18UNSS4172	看護マネジメント	4	看護マネジメントは良質で、安全な医療を効率的に提供するために必要不可欠な過程である。本講義では、組織管理、看護ケアの質管理、安全管理、キャリア開発といった看護マネジメントの基礎的知識を習得する。	組織における看護体制、ケアにおけるマネジメント、チーム内でのメンバーシップやリーダーシップ、看護ケアサービスの質管理といった安全で良質な医療を提供するために必要な看護マネジメントの基本について理解を深める。		◎	○				◎	◎	○					
	18UNSS4173	家族看護学	4	この科目では、家族とは何か、家族に対するアセスメント、家族支援に関する理解を深め、それらの学びを活用して実習で受け持った事例の家族に関する分析を行うことを目的とする。	1. 家族に関連する種々の理論の概要を理解できる。 2. 家族を援助するためのアセスメントの視点を理解できる。 3. 家族に対する援助を考えるための視点を理解できる。 4. 実習での事例を通じて、家族への援助を検討する。		◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 表現			3. 思考			4. 態度・志向性		5. 実践
					1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	5-1			
専門教育科目 統合分野	18UNSS4174	看護研究方法	4	社会的な動向に関連した看護研究の発展過程を通して、看護研究が看護実践の質的向上に必要である観点の理解を深める。また、研究のプロセスや研究の倫理に関する基礎的学習を行い、研究計画書や論文作成の基本、発表方法などの基礎的素地を育成する。加えて、代表的な研究デザインをとりあげて、量的・質的研究それぞれの特徴と実際の展開例を学習する。	1. 看護研究と看護実践の関連性について自分なりの考えをまとめ、研究課題をどう見出すかを考察することができる。 2. 研究目的に合致する研究デザインの選択ができる。 3. 研究の倫理的配慮に関して必要な項目をあげることができる。		○		○	○	○	○	○			
	18UNSS4175	看護英文講読	4	看護研究方法論で学んだ文献検索方法を用い、卒業研究に関連した看護・医療に関する文献に慣れるため、研究テーマに関連した英語文献を抽出し、その文献を読んで内容を理解できる基礎的能力を育成することが目的である。	1. 自分の関心のあるテーマに関連した英語文献を抽出することができる。 2. 自分の関心のあるテーマに関連した英語文献を読み、内容を説明できる。		○		○	○	○	○	○			
	18UNSS4176	卒業演習	4	看護研究の方法論や看護の基礎・専門領域の既習の学びを基盤にし、各自の問題意識から研究テーマの明確化を行った上で研究プロセスを主体的に学習し、研究に対する基礎的な態度を身につける。	1. 研究の必要性や意義を踏まえ、看護において解決すべき問題や現象、疑問事項などの自分の研究テーマを明らかにすることができる。 2. 研究テーマから研究目的の明確化を行い、目的に合致する研究計画書の作成ができる。 3. 研究計画書に基づいてデータ収集および分析ができる。 4. 研究によって得られた結果・考察に基づき、論文にまとめ、示説発表を行うことができる。						◎	◎				
	18UNSS3277	国際看護学	2,3	国際的観点から健康状態や看護の問題点を理解し、看護師として貢献できる国際看護学の基礎知識を習得することを目的とする。	1. 医療制度、医学、看護活動に関する日本と他の国間の文化の違いについて知ることができる。 2. とりわけアメリカの医療制度や看護活動の知識を習得することができる。 3. 日本の文化との違いや看護活動を体験することができる。 4. 母子保健、感染症看護、災害看護における国際的な健康課題・問題を議論することができる。			◎				◎	◎			
	18UNSS3278	実践看護英語	2,3	看護師として国際的な視野から人々の健康状態や看護の問題点を理解し、国際看護学の基礎知識や国際看護活動の実際を学修するために必要な語学力・コミュニケーション能力を養うことを目的とする。	1. 国際的な視野をもって人々の健康状態や看護の問題点について英語で考え、発言できる語学力・コミュニケーション能力のレベルアップを図ることができる。 2. 英語力のレベルアップにより異文化理解を深めることができる。			◎				◎	◎			